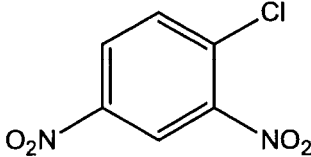


既存化学物質審査シート

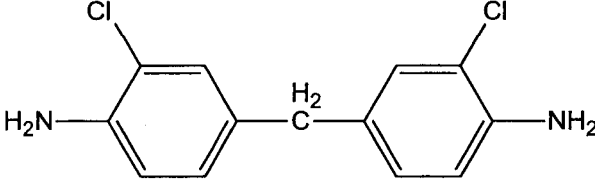
官報公示 整理番号	1-283	CAS No.	7789-12-0
審議結果	人健康影響 (二クロム酸ナトリウムについて) 第二種監視化学物質相当 (平成 16 年 8 月 11 日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	重クロム(VI)酸ナトリウム (2水和物) $\text{Na}_2\text{Cr}_2\text{O}_7 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames 【審議済み】	陽性 比活性値=11667rev./mg (-S9mix 群: TA100) -S9mix 群の TA100, WP2 uvrA, TA98, TA1537 株及び+S9mix 群の TA100, WP2 uvrA, TA98 株において、対照群の 2 倍を越える変異コロニーの誘発。 純度 100.07%。溶媒 (注射用水-溶解)。 TA100, TA1535, TA98, TA1537, WP2 uvrA. 実験 I, II とも -S9mix 群: 250 μg/plate (WP2 uvrA: 最高用量で菌の生育阻害) 62.5 μg/plate (TA98, TA1535, TA1537 は 31.3 μg/plate 以上、 TA100 は最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群: 500 μg/plate (WP2 uvrA: 最高用量で菌の生育阻害) 125 μg/plate (WP2 uvrA 以外: 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常 【審議済み】	陽性 D20=0.00087mg/mL (-S9mix 群: 構造異常) ±S9mix 群で構造異常の誘発。 純度 100.07%。溶媒 (注射用水-溶解)。CHL/IU。 3.0mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群: 0.009mg/mL (細胞毒性のため 0.0023mg/mL まで観察) +S9mix 群: 0.09mg/mL (細胞毒性のため 0.023mg/mL まで観察)		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox) 【審議済み】	投与方法	強制経口投与 溶媒: 注射用水	
	純度	100.07 %	
	用量	3 投与群 (1, 6, 30 mg/kg)	
	死亡	死亡(予備試験 300mg/kg : ♂3/3・♀3/3、100mg/kg : ♀2/3)	
	NOEL	反復投与毒性: 1mg/kg/day 生殖発生毒性: 6 mg/kg/day	
推定根拠	反復投与毒性 血液生化学的検査 (TP ↓ : 6 以上♂) 組織学的所見 (腺胃-粘膜びらん: 6 以上♀・30♂ 腺胃-粘膜胃小窩上皮増生・粘膜炎症性細胞浸潤: 6 以上♂♀) 生殖発生毒性 全出産児死亡: 30♀		
他の毒性	反復投与毒性 一般状態 (流涎: 30♂♀) 血液学的検査 (Hgb ↓ : 30♀、MCH ↓・MCHC ↓ : 30♂♀、Ret ↑ : 30♂) 血液生化学的検査 (Cl ↑ : 30♂) 組織学的所見 (胃-膵腺房細胞様細胞: 30♂♀ 前胃-水腫・扁平上皮増生・炎症性細胞浸潤・粘膜潰瘍: 30♂ 腺胃-粘膜・胃底腺頸部粘液細胞増生: 30♂・粘膜潰瘍: 30♂♀、 腎-近位尿管上皮壊死: 30♀)		

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-454	CAS No.	97-00-7
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として、平成 12 年 9 月 22 日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1-クロロ-2,4-ジニトロベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	指定化学物質として、平成 12 年 9 月 22 日告示済み。 変異原性がみとめられていることから化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、指定化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.020、0.038、0.074、0.14、0.27、0.52、1.0 mg/L 実測濃度 0.020、0.038、0.073、0.14、0.27、0.53、1.0 mg/L (0h) -※、-※、-※、-※、0.036、0.50、0.98 mg/L (72h) ※ 検出限界 (0.005 mg/L) 未満 助剤： なし ①ガラスへの吸着、分解等の場合。 0-72hErC50 (実測濃度の幾何平均値に基づく) =0.18 mg/L 0-72hNOECr (実測濃度の幾何平均値に基づく) =0.0060 mg/L ②藻体への吸着の場合。 0-72hErC (初期実測値に基づく) =0.35 mg/L 0-72hNOECr (初期実測値に基づく) =0.014 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.099、0.18、0.33、0.55、0.97 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (設定値に基づく) =0.66 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、48 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0070、0.022、0.070、0.22、0.70 mg/L 実測濃度 0.0043、0.017、0.056、0.18、0.60 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) =0.18 mg/L		

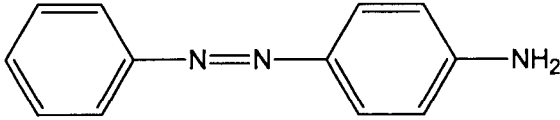
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.092、0.17、0.29、0.52、0.99 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 96hLC50 (設定値に基づく) =0.16 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.180mg/L 群：異常遊泳 (48hr 1/10、96hr 1/3)</p>				
魚類初期生活段階毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG210 試験方式：流水式 物質濃度：設定濃度 0.0090、0.022、0.052、0.13、0.30 mg/L 実測濃度 0.0087、0.022、0.052、0.12、0.28 mg/L (算術平均値) 助剤：なし NOEC (設定値に基づく) =0.052 mg/L 【推定根拠 体重、体長】</p>				
他の毒性情報	<p>化学物質の環境リスク評価 第2巻 (環境省環境保健部環境リスク評価室) より引用 ミジンコに対する毒性として <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=0.49 mg/L</p>				
生態影響判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.18mg/L、0-72hNOECr=0.0060mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.66mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.16mg/L 及び魚類初期生活段階毒性試験において NOEC=0.052mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S53	0/24	—	0.2~0.5 (μg/L)
	底質	S53	0/15	—	0.007~0.0167 (μg/g-dry)
	魚類				
備考	<p>※ 1 S54 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-95 4-96 4-275	CAS No.	101-14-4
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として昭和 62 年 10 月 17 日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4, 4' -ジアミノ-3, 3' -ジクロロジフェニルメタン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	指定化学物質として、昭和 62 年 10 月 17 日告示済み。 変異原性及びがん原性がみとめられることから、指定化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.90、1.2、1.6、2.2、3.0 mg/L 実測濃度 0.24、0.32、0.45、0.54、0.85 mg/L (幾何平均値) 助剤： DMF 100 μL/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) >0.85 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.54 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.21、0.36、0.60、1.0、1.8、3.0 mg/L 実測濃度 0.15、0.26、0.42、0.69、1.2、2.1 mg/L (幾何平均値) 助剤： DMF 100 μL/L 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.92 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0030、0.0095、0.030、0.095、0.30 mg/L 実測濃度 0.0031、0.0096、0.031、0.099、0.33 mg/L (時間加重平均値) 助剤： DMF 100 μL/L 21dNOEC (設定値に基づく) =0.0095 mg/L		

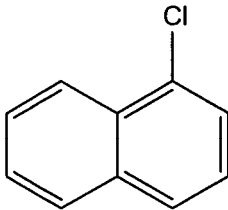
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.30、0.53、0.95、1.7、3.0 mg/L 実測濃度 0.26、0.47、0.85、1.4、2.6 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 96hLC50 (設定値に基づく) =0.61 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.53 mg/L 群：異常遊泳 (48hr 1/10、72hr 1/8) 0.95 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 2/10、48hr 2/9、72hr 4/4、96hr 2/2)</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.92mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.0095mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.61mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S54 S60	0/39 0/30	— —	0.02~200(μ g/L) 5(μ g/L)
	底質	S54 S60	0/39 0/24	— —	0.001~3.0(μ g/g-dry) 0.4(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S55、S61 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-363	CAS No.	60-09-3
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成 16 年 7 月 2 日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: p- (フェニルアゾ) アニリン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質として、平成 16 年 7 月 2 日告示済み。 発がん性がみとめられていることから化学物質排出把握管理促進法の第二種指定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: OECD-TG201 培養方式: 振とう培養 試験濃度: 設定濃度 0.039、0.16、0.62、2.5、10 mg/L 実測濃度 0.035、0.14、0.55、2.3、9.6 mg/L (幾何平均値) 助剤: なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) =2.9 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.14 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG202 試験方式: 止水式 試験濃度: 設定濃度 0.30、0.51、0.86、1.5、2.5 mg/L 実測濃度 0.28、0.47、0.80、1.4、2.3 mg/L (時間加重平均値) 助剤: なし 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.46 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG211 試験方式: 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度: 設定濃度 0.0010、0.0020、0.0040、0.0080、0.016 mg/L 実測濃度 0.00092、0.0018、0.0036、0.0071、0.014 mg/L (時間加重平均値) 助剤: なし 21dNOEC (実測値に基づく) =0.0071 mg/L		

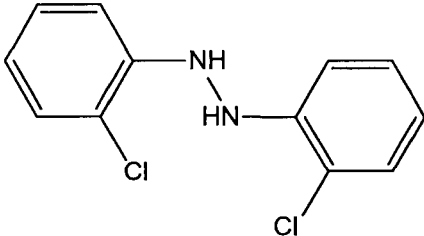
<p>魚類急性 毒性</p>	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：流水式 物質濃度：設定濃度 0.12、0.18、0.27、0.40、0.60 mg/L 実測濃度 0.12、0.18、0.27、0.40、0.61 mg/L (算術平均) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) =0.35 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.27mg/L 群：軽度平衡喪失 (96hr) 出血 (72hr、96hr) 表層遊泳 (96hr) 過活動 (96hr) 0.40mg/L 群：軽度平衡喪失 (72hr、96hr) 出血 (72hr、96hr) 表層遊泳 (72hr、96hr) 活動低下 (72hr、96hr) 過活動 (72hr)</p>
<p>生態影響 判定根拠</p>	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.46mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.0071mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.35mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
<p>備考</p>	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-316	CAS No.	90-13-1
審議結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1-クロロナフタレン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.030、0.095、0.30、0.95、3.0 mg/L 実測濃度 0.024、0.070、0.22、0.70、2.2 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) >2.2 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.070 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.24、0.41、0.69、1.2、2.0 mg/L 実測濃度 0.18、0.33、0.56、0.92、1.6mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.73 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.025、0.050、0.10、0.20、0.40 mg/L 実測濃度 0.025、0.047、0.094、0.19、0.37mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) =0.094 mg/L		

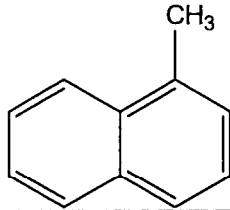
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.20、0.59、1.8、2.3、3.0 mg/L 実測濃度 0.16、0.48、1.5、1.9、2.6 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) = 1.7 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.48 mg/L 群：表層遊泳 (24hr、72hr、96hr) 1.5 mg/L 群：軽度平衡喪失 (24hr、48hr) 完全平衡喪失 (24hr、48hr、72hr、96hr) 表層遊泳 (24hr、48hr、72hr、96hr) 活動低下 (24hr、48hr、72hr、96hr) 嗜眠状態 (24hr、72hr) 1.9 mg/L 群：軽度平衡喪失 (24hr、48hr) 完全平衡喪失 (24hr、48hr、72hr、96hr) 表層遊泳 (24hr、48hr、72hr、96hr) 活動低下 (24hr、48hr、72hr、96hr)</p>				
生態影響判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 0-72hNOECr=0.070mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.73mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.094mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=1.7mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※ 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S52 S61	0/6 0/33	— —	0.03~3(μ g/L) 0.05(μ g/L)
	底質	S52 S61	0/6 0/30	— —	0.012~0.3(μ g/g-dry) 0.003(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※ 1 S53、S62 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2756	CAS No.	782-74-1
審議結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2, 2'-ジクロロヒドラゾベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.03、0.06、0.10、0.18、0.33、0.60、1.1★、2.0★、3.5★mg/L 実測濃度 0.01、0.02、0.04、0.08、0.18、0.39、0.91★、1.4★、3.0★mg/L (0h) -※、-※、-※、0.003、0.09、0.13、0.53★、0.91★、2.0★mg/L (72h) ※ 検出限界 (0.01 mg/L) 未満、★追加試験 助剤： HCO-50 100 mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) >2.5 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.13 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間後に換水 試験濃度： 設定濃度 0.11、0.19、0.34、0.62、1.1、2.0 mg/L 実測濃度 0.05、0.07、0.15、0.35、0.71、1.4 mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-50 20 mg/L (最高濃度) 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.23 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に 3 回換水 試験濃度： 設定濃度 0.021、0.038、0.069、0.12、0.22、0.40 mg/L 実測濃度 <0.01、<0.02、<0.03、<0.05、0.09、0.23 mg/L (時間加重平均値) 助剤： HCO-50 20 mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.09 mg/L		

魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.12★、0.21★、0.38、0.69、1.2、2.2、4.0 mg/L 実測濃度 —★★、0.05★、0.05、0.15、0.37、1.0、2.2 mg/L (幾何平均値) ※ 検出限界 (0.03 mg/L) 未満、★追加試験 助剤：HCO-50 40 mg/L (最高濃度) 96hLC50 (実測値に基づく) =0.10 mg/L ※追加試験 また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.05 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 1/10、48hr 2/8、72hr 2/8、96hr 3/6) 平衡喪失又は遊泳不能 (24hr 1/10、48hr 1/8、72hr 1/8) 異常呼吸 (96hr 1/6) 0.15 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 5/9、48hr 2/7、72hr 3/5、96hr 3/4) 平衡喪失又は遊泳不能 (24hr 3/9、48hr 3/7、72hr 2/5、96hr 1/4)</p>
魚類初期 生活段階 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG210 試験方式：流水式 物質濃度：設定濃度 0.0020、0.0053、0.014、0.038、0.10 mg/L 実測濃度 0.0016、0.0042、0.012、0.036、0.095 mg/L (算術平均値) 助剤：DMF 約 0.1 mL/L 及び HCO-60 0.5 mg/L NOEC (実測値に基づく) =0.0042 mg/L 【推定根拠 体長】</p>
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.23mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.09mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.10mg/L 及び魚類初期生活段階毒性試験において NOEC=0.0042mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

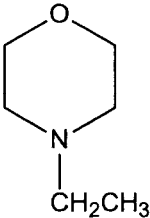
官報公示 整理番号	4-80	CAS No.	90-12-0
審議結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1-メチルナフタレン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉系） 試験濃度： 設定濃度 0.30、0.54、0.97、1.7、3.1、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.26、0.45、0.82、1.4、2.7、4.8、8.4 mg/L（幾何平均値） 助剤： 2-メトキシエタノール及び HCO-40（1:1） 40 mg/L 0-72hErC50（実測値に基づく）=2.8 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.45 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.50、0.90、1.6、2.8、5.0 mg/L 実測濃度 0.45、0.89、1.5、2.6、4.7 mg/L（幾何平均値） 助剤： 2-メトキシエタノール及び HCO-40（1:1） 40 mg/L 48hEiC50（設定値に基づく）=2.2 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、48時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.025、0.080、0.25、0.80、2.5 mg/L 実測濃度 0.022、0.070、0.22、0.72、2.2 mg/L（時間加重平均値） 助剤： 2-メトキシエタノール及び HCO-40（1:1） 30 mg/L 21dNOEC（実測値に基づく）=0.22 mg/L		
魚類急性 毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 0.50、1.0、2.0、4.0、8.0 mg/L 実測濃度 0.45、0.90、1.8、3.6、7.2 mg/L（幾何平均値） 助剤： メチルセロソルブ及び HCO-40 96 mg/L（最大濃度） 96hLC50（設定値に基づく）=5.7 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.0 mg/L 群： 異常遊泳（72hr 9/10、96hr 10/10） 2.0 mg/L 群： 異常遊泳（24hr 9/10、48hr 9/10、72hr 9/10） 遊泳不能（24hr 1/10、48hr 1/10、72hr 1/10、96hr 10/10） 4.0 mg/L 群： 異常遊泳（24hr 2/10、48hr 2/10） 遊泳不能（24hr 8/10、48hr 8/10、72hr 10/10、96hr 10/10）		

生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=5.7mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S51	0/28	—	0.2~1(μ g/L)
	底質	S51	0/28	—	0.02~0.1(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
大気	S59	65/72	1.9~280	0.4~5 (ng/m ³)	
	H10	29/30 10/10	5.1~150	2 (ng/m ³)	
備考	※1 S52、S60、H11 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)				

	他の毒性	体重↓・摂餌量↓：60♂♀ 一般状態（散瞳・流涎：30以上♂♀、 振戦・自発運動低下・緩徐呼吸・体温低下：60♂♀） 機能検査（散瞳：30以上♂♀、 振戦・緩徐呼吸・流涎・瞳孔反射低下・自発運動低下：60♂♀） 血液生化学検査（Cho↑・PL↑：30以上♀、TP↓・GPT↑・K↑：60♂♀、 Alb↓・ALP↑・BUN↑：60♂、TG↑・Na↓：60♀） 相対重量（肝↑：30以上♀） 組織学的所見（肝一小葉中心性肝細胞肥大：60♀）
	回復性	問題なし
簡易生殖 【審議済 み】	投与方法	強制経口投与 溶媒：0.1%Tween80 添加 0.5%CMC-Na 水溶液
	純度	99.6%
	用量	3投与群（8,20,50mg/kg/day）
	死亡	予備試験（単回） 120：♂4/5・♀5/5、60：♂1/5・♀3/5 28日間試験 60：♂1/12・♀7/12 本試験 50：♂2/12・♀3/12
	NOEL	反復投与：8mg/kg/day 生殖発生毒性：20mg/kg/day
	推定根拠	反復投与 摂餌量↓：20以上♀・50♂ 一般状態（流涎：20以上♂♀、 散瞳・自発運動低下・緩徐呼吸・腹臥位・振戦：20以上♀・50♂） 生殖発生毒性 出産児数↓・生後4日児数↓・出生率↓・生後0日児体重↓・児外表異常↑・ 生後4日児生存率↓：50
	他の毒性	反復投与 体重↓：50♂♀
	回復性	検査なし
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験陰性であり、染色体異常試験は陽性であるも軽微であるが、NOEL7.5mg/kg/day （簡易生殖毒性試験における反復投与毒性については 8mg/kg/day）であることから第二 種監視化学物質相当。【審議済み】	
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.50、0.82、1.4、2.2、3.7、6.1、10 mg/L 実測濃度 0.52、0.84、1.5、2.3、3.8、6.3、10 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 40 μL/L 0-72hErC50（設定値に基づく）=8.6 mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく）=2.2 mg/L	
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 2.5、4.5、8.0、14、25 mg/L 実測濃度 2.6、4.7、8.4、14、25 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 100 μL/L 48hEiC50（実測値に基づく）=7.2 mg/L	

ミジンコ 繁殖阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.080、0.25、0.80、2.5、8.0 mg/L 実測濃度 0.89、0.28、0.88、2.8、9.0 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 21dNOEC (実測値に基づく) =2.8 mg/L</p>
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 5.0、7.5、11、17、25 mg/L 実測濃度 5.0、7.6、11、17、25 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 96hLC50 (実測値に基づく) =19 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 11mg/L 群：異常遊泳 (平衡感覚の消失) (24hr 1/10、48hr 1/9、72hr 2/9) 17mg/L 群：異常遊泳 (平衡感覚の消失) (24hr 4/9、48hr 3/9、72hr 1/9、96hr 4/9) 遊泳不能 (24hr 3/9、48hr 4/9、72hr 8/9、96hr 5/9) 鰓部出血 (72hr 3/9、96hr 3/9)</p>
生態影響 判定根拠	<p>3 種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値が 48hEC50=7.2mg/L (ミジンコ急性遊泳阻害試験) であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=2.8mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

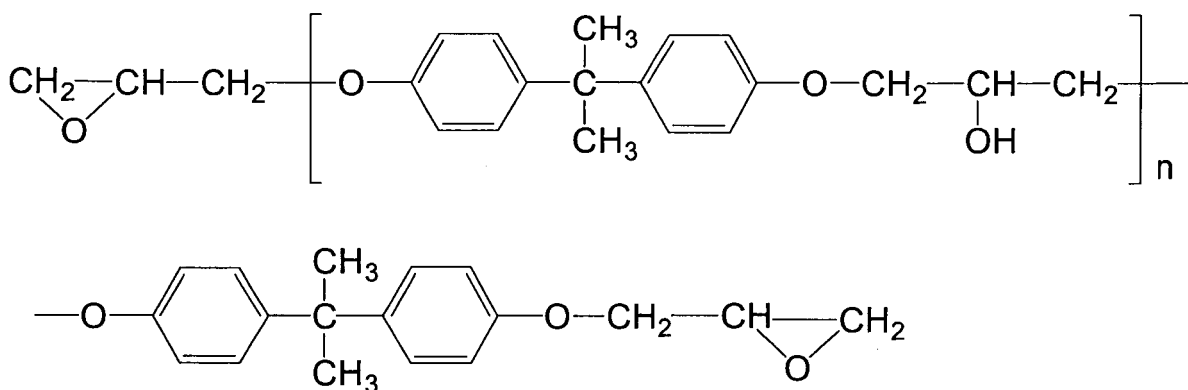
官報公示 整理番号	5-860	CAS No.	100-74-3
審議結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【審議済み】 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	名称：4-エチルモルホリン <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames 【審議済み】	陰性 純度 99.84%. 溶媒 (蒸留水-溶解). TA100, TA1535, TA98, TA1537, WP2 uvrA. 実験 1、2 ともに -S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate		
染色体異常 【審議済み】	陰性 純度 99.84%. 溶媒 (生理食塩水-溶解). CHL/IU. 1.2mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 1.2mg/mL +S9mix 群 : 1.2mg/mL 24 時間処理群 : 1.2mg/mL (細胞毒性のため 0.6mg/mL まで観察)		
28 日間 反復投与 【審議済み】	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水	
	純度	>99 %	
	用量	3 投与群 (50, 200, 800 mg/kg/day)	
	死亡	急性毒性(2000♂3/3・♀2/3、1500♂1/3、1000♀1/3) 予備試験(1000♂1/3・♀1/3)	
	NOEL	50 mg/kg/day	
	推定根拠	一般状態(断続的な咀嚼様動作/舐める動作：200 以上♂♀)	
	他の毒性	体重↓(800♂♀) 摂餌量↓(800♂♀) 一般状態(動作振戦・活動性低下・うずくまり・閉眼・流涎：800♂♀) FOB[詳細な観察](咀嚼様動作/舐める動作・動作振戦・接触による過敏反応↑：800♂♀) FOB(自発運動量(立ち上がり回数)↓：800♀) 尿検査(尿蛋白↓：800♂、尿中ケトン体↑・尿中ウビリノーゲン↑・尿量↑・尿比重↓：800♀) 血液学的検査(PLT↑：800♀、PT↓・APTT↓：800♂) 血液生化学的検査(Pi↑・Cl↓：800♂♀、Alb↓・BUN↑・Ca↑：800♂、Glu↑・TG↑：800♀) 絶対重量(肝↑：800♀) 相対重量(肝↑・腎↑：800♂♀、副腎↑：800♂) 組織学的所見(肝-小葉中心性肝細胞肥大：800♂♀、腎-遠位尿細管上皮空胞化：800♂♀)	
回復性	一般状態(接触に対する反応(やや過敏に反応))		
簡易生殖	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水	

【審議済み】	純度	>99 %				
	用量	3 投与群 (50, 150, 500 mg/kg/day)				
	死亡	500(♀1/13)				
	NOEL	反復投与： 50 mg/kg/ day 生殖発生毒性： 500 mg/kg/ day				
	推定根拠	反復投与： 体重↓(150 以上♀・500♂) 摂餌量↓(150 以上♀・500♂) 一般状態(流涎：150 以上♂♀) 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない。				
	他の毒性	-				
	回復性	検査なし				
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL50mg/kg/day (簡易生殖毒性試験における反復投与毒性についても 50mg/kg/day) であり神経毒性がみとめられることから第二種監視化学物質相当。【審議済み】					
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 10、15、23、35、53、80 mg/L 実測濃度 10、15、24、36、53、82 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (設定値に基づく)： 53 mg/L < 0-72hErC50 < 80 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) = 23 mg/L ①53、80mg/L において細胞凝集が認められた。					
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間後に換水 試験濃度： 設定濃度 100 mg/L (限度試験) 実測濃度 92 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (実測値に基づく) > 92 mg/L					
ミジンコ繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 100 mg/L (限度試験) 実測濃度 99 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) = 99 mg/L (試験上限濃度では影響が認められなかった)					
魚類急性毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 100 mg/L (限度試験) 実測濃度 100 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 96hLC50 (実測値に基づく) > 100 mg/L					
生態影響判定根拠	3 種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値が 53mg/L < 0-72hEC50 < 80mg/L (藻類生長阻害試験) であり、かつ藻類生長阻害試験において 0-72hNOEC=23mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。					
環境調査	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値	

※1	水質	S54	0/33	—	1~30($\mu\text{g/L}$)
	底質	S54	0/33	—	0.01~0.7($\mu\text{g/g-dry}$)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S55 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)				

【化学物質排出把握管理促進法上の第一種指定化学物質における、難分解性及び高濃縮性でないとは判定済み物質の化審法上の人健康影響の審議について】

物質名称: 4,4'-イソプロピリデンジフェノールと 1-クロロ-2,3-エポキシプロパンの重縮合物(液状のものに限る。)



官報公示整理番号: 7-1279 cas:25068-38-6

分解性: 難分解性

蓄積性: 高濃縮性でない

人健康影響判定根拠:

変異原性がみとめられていることから化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがある

審議結果

第二種監視化学物質相当